

# カラスガレイ 北西大西洋

Greenland Halibut *Reinhardtius hippoglossoides*



## 管理・関係機関

北西大西洋漁業機関 (NAFO) (注) NAFO 条約海域に南北2系群あるが、本稿は日本 TAC 枠がある南系群域に関する情報。

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：雄 90 cm・7.7 kg、雌 109 cm・14.1 kg。体長は下顎先端～尾鳍基底、体重は全重量（代表的な成長式及び体長・体長関係に基づく）。
- 寿命：最大寿命は雄 17 歳、雌 33 歳（研究例）。資源評価では 10 歳以上を Plus group として取り扱う。
- 性成熟年齢：雄 9～10 歳、雌 12～13 歳（50%成熟年齢）。
- 産卵期・産卵場：周年（夏・秋に多い）。グランドバンク・フレミッシュパス（NAFO 海域 3LM）。
- 索餌期・索餌場：秋（10～11 月）に活発。グランドバンク・フレミッシュパス（NAFO 海域 3LM）。
- 食性：魚類（タラ、ゲンゲ、シシャモ、アカウオ等の幼魚）、甲殻類（エビ）、頭足類（イカ）等。
- 捕食者：シャチほか。

## 利用・用途

食用（生鮮・冷凍）で販売され、惣菜（煮つけ、ムニエル、ソテー、唐揚、刺身）や寿司ネタとして利用。

## 漁業の特徴

主に着底トロールで漁獲される。NAFO 発足以降 42 年間（1979～2020 年）の平均漁獲量の多い国はカナダ（38%）、スペイン（28%）、ポルトガル（14%）、日本（5%）、ロシア（5%）でこの5か国で全体の90%を占める。

## 漁獲の動向

本格的な漁業が開始したのは1964年（4,300トン）からで、漁獲量は7年後の1970年に3.7万トンとなり9倍近く急増した。その後1978～1980年、1992～1994年及び2000～2003年にあった3回の漁獲量ピーク期（平均漁獲量各3.5万、5.4万、3.2万トン）以外は、減少傾向が続き現在に至っている。最近5年間（2016～2020年）の平均漁獲量は1.5万トンで、3回のピーク時平均漁獲量の48%と低いレベルにある。

## 資源状態

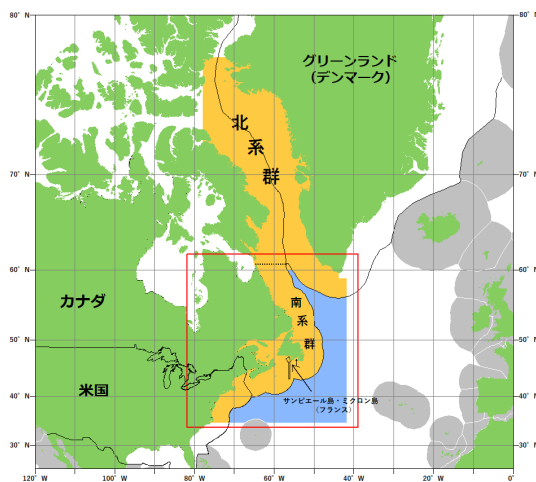
最新の資源評価は2020年6月の科学理事会で実施された。本資源評価の目的は、現在 TAC 決定に使用されている管理戦略評価 (MSE) のパフォーマンスをレビューすることである。資源評価は MSE のオペレーティングモデル (OM) で使用されている統計的年齢別漁獲尾数モデル (SCAA) 及び拡張型 SCAA 状態空間モデル (SAM) により実施された。本資源評価は MSE の OM で合意されたベースケースを用いて実施された。両者による資源評価結果に基づく神戸プロットを図に示した（1975～2019年）。Bは漁獲対象（5～9歳）資源量。2019年の資源状態は両者共にイエローゾーン（資源量は乱獲状況であるがFはMSYを下回りやや回復傾向）である。両者の大まかな資源状況の変遷傾向は似ているが、細かい動きは異なる。その理由は両モデルの異なる仕様（特に親子関係の有無）によるものと考えられている。

## 管理方策

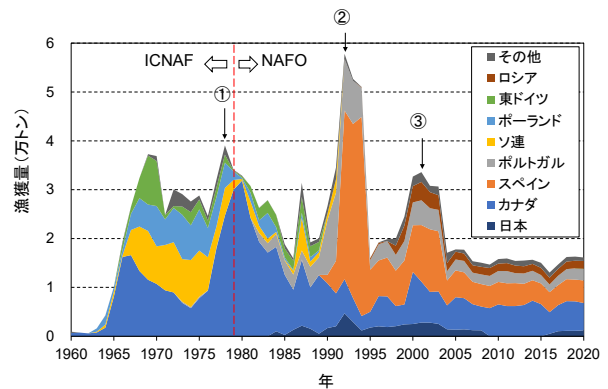
主な管理方策は MSE に基づく漁獲管理ルール (HCR) で、2018～2023 年（6 年間）の TAC 決定に運用。その他国別 TAC 枠、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制（30 cm）、網目規制（130 mm）等。

カラスガレイ（北西大西洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量（最近5年間）	13,000～16,300トン 最近（2020）年：16,100トン 平均：15,230トン（2016～2020年）
我が国の漁獲量（最近5年間）	509～1,219トン 最近（2020）年：1,219トン 平均：992トン（2016～2020年）
管理目標	2037年までにB（漁獲対象資源）をB <sub>MSY</sub> レベルに回復（MSEの管理目標）
資源評価の方法	SCAA およびSSM（2019年までのデータによる資源評価）
資源の状態	神戸プロット黄色ゾーン（資源は乱獲状況にあるが過剰漁獲圧はなく回復傾向にある）
管理措置	MSE（HCR）、国別TAC枠、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制（30cm）、網目規制（130mm）ほか
最新の資源評価年	2020年
次回の資源評価年	2023年

（注）NAFO条約海域（南系群）操業域（統計海域2+3KLMNO）の情報に基づく

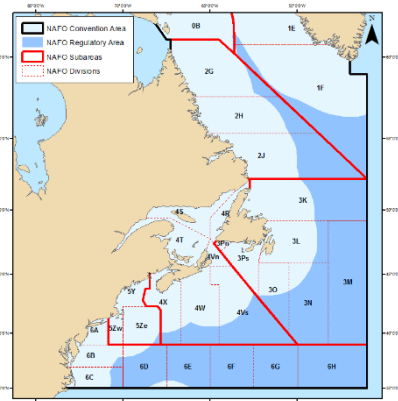


NAFO条約海域＝管轄海域（空色）＋EEZ（オレンジ色）  
 （注1）カラスガレイには南北2系群あり、本稿では日本TAC枠のある南系群の情報をまとめた  
 （注2）赤枠内の詳細は下図

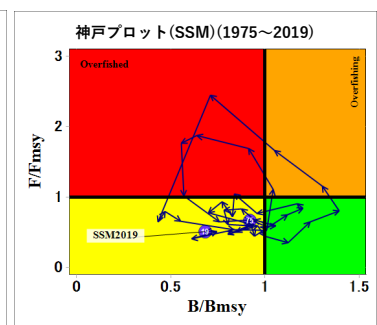
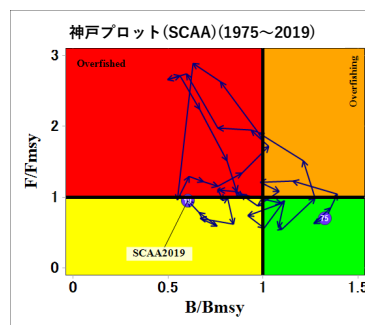


NAFO条約域（統計海域2+3）におけるカラスガレイ国別漁獲量（1960～2020年）

（注1）ソ連は1991年まで、1992年以降ロシア。東ドイツは1990年まで、それ以降（統一）ドイツの操業はない  
 （注2）その他（累積漁獲量順）：フェロー諸島、西ドイツ（1990年まで）、仏領サンピエール島・ミクロン島、ノルウェーほか  
 （注3）①、②及び③は、3回の漁獲量ピーク年を示す



NAFO条約海域南部の統計海域  
 南系群操業域＝カナダEEZ内（海域2+3K）＋日本ほか加盟国TAC枠のある公海域（3LMNO）



SCAA と SSM による資源評価結果に基づく神戸プロット（1975～2019年）